

No. 2 7 8 9

南アルプス最南の3000m峰を目指す 畑薙大吊橋～聖岳～聖沢～樫島

実施日	2016年8月5日(金)～8日(月)
天候	8/5 晴午後一時雨 8/6-8 晴
リーダー	涌井 良明
参加者	涌井良明、石附智江、遠井兼策、中村友子、宇野輝代、石附恵理子 計6名
費用	交通費(車2台分担@≒5,000) 宿泊費25,000円 計30,000円
タイム	8/5 畑薙第一ダム臨時P(10:50~11:35井川観光送迎(車)) 畑薙大吊橋(11:55~12:00)ヤレヤレ峠(12:40~45)休(13:33~40)ウソッコ沢小屋(1:05~15)中の段(15:17~25)横窪沢小屋(16:10) 泊 8/6 横窪沢小屋(5:45)展望台(6:45~53)樺段(7:50)茶臼小屋(8:48~9:00)稜線(9:21~25)休・お花畑先(10:00~23)軽食)上河内岳肩(11:30~12:03)昼食)南岳(12:45~55)聖平小屋(14:15) 泊 8/7 聖平小屋(3:30)小聖岳(5:00~10)聖岳(6:17~50)朝食)小聖岳(7:40~50)聖平小屋(8:50~9:20)慰霊碑(10:15)滝見台(10:40)休・2105付近(11:30~12:00)昼食)聖沢橋(13:25~35)聖登山口(14:40~15:10)送迎(車)樫島ロッジ(15:30) 泊 8/8 樫島ロッジ(7:45)送迎(車)畑薙第一ダム臨時P(8:48~9:00)～車～駿河湾沼津SA(12:40~13:40)昼食)帰宅へ(車)

こぶし会45周年の夏は南アルプス最南端の3000m峰の聖岳を目指した。

当初予定していた光岳は割愛したが、南アの大きさ山の深さを感じることのできた山行となった。実施日直前に行程の再検証などで、アプローチに車を使用せざるを得なくなり、急遽車の提供に応じてくれたメンバーに感謝です。

8/5 奇しくもリオオリンピック開幕日に合わせた出発となって、開会式を見逃したのはちょっと残念かも。

静岡駅でメンバー1人をピックアップ、しずてつジャストライン車ルートを辿って、畑薙第一ダム臨時Pに11時前に到着、先着していたメンバーと合流した。

11時35分発の送迎(井川観光協会)で



畑薙大吊橋へ、名物の長～い吊橋(良い揺れ具合で高さ約30m)を渡ることから今回の歩きが始まった。

直ぐに150m位急登すると、平坦だが斜め気味のトラバース道になりしばらくでヤレヤレ峠だ。やや下って沢(ウソッコ沢)に会う、数回吊橋で渡り返し沢から離れてからウソッコ沢避難小屋に出る。傍らのフシグロセンノウが鮮やかだった。

吊橋と鉄梯子を越すと一気に急登になる。九十九折だがつらい登りだ、そのうち葉をたたく



雨音が。暑いが雨具を羽織り登るが本降りにはならず助かる。

中ノ段を越すと徐々に傾斜が緩くなって登り着いた所が横窪峠で、少し下に横窪沢小屋が見える、ザレ気味のトラバースを下り、橋を渡って小屋に着く。樹林の中わりとしっかりした小屋で混雑もなく快適な初日の宿となった。

8/6 6時前に小屋脇からの尾根の急登に取り付く、木漏れ日の急登の折り

返しつつ高度を上げて行く。およそ1時間ほどで展望のある休憩ポイントで一服、倒木ベンチのある中間点(茶臼小屋間)とひたすら登って行く。樺段を過ぎると辺りの明るさも増し、樹間からの展望や上部が開けてくるのが嬉しい。



周囲の花の種類も多くなり、森林限界になり富士の姿も見られるようになる。小沢状の水場のすぐ上に建つ茶

臼小屋に着くが、頭上の青空と高山の雰囲気やっとな夏らしい気分になる。やはり南アは深いし標高差の克服も半端ない、特に年を重ねた山ヤにはね。

茶臼小屋からスカイラインの稜線目指して登り、主稜線に出る。一気に大展望が広がり、聖・赤石の雄姿が目飛び込んでくる。

左へは茶臼岳から光岳へ、右は今回辿る上河内岳から聖岳への稜線である。



緩く登って稜線の西側の灌木道を下ると広い平坦地で亀甲状土も見られるお花畑になる、前方にはあれを登るのか? という、標高差を見せる上河内岳がカッコ良い姿を見せている。

平坦部を過ぎた所で、シャリバテ防止で軽くカロリー補給。急な登りではないが、気温も上り暑さもあって体が重い! 他のメンバーはどうなのだろうか?



奇岩を見せる竹内門を過ぎて登り切って上河内岳の肩に着く。ややぐったり感。精鋭二名が山頂

を往復する間に待機班はお先に腹ごしらえをする。行き交う登山者も少なく、圧倒感漂う聖岳へ続く山稜の眺めの何とも素晴らしいことか!!

今日の登りはあらかたここ迄で、後半の歩きになる。これまでに比べるとなだらかに見える南岳に向かい緩やかに下って行く。南岳に近づくと花も姿も種類も急に増えてくる、トリカブトやマツムシソウと晩夏を感じさせる花も混じっていた。お花畑の道を登って、



小広い南岳だ。振り返ると上河内岳がやたらでかく感じられる、逆コースじゃなくて良かったと思わせる。導標には聖平60分とあり、ヨシ! 余裕々と思っただが・・・

南岳から一気に下る道になる、左の大ガレの縁に行く箇所もあるが花々に癒されながら高度を下げて行く。下るにつれ樹林帯を歩くようになると、もうそろそろと思わせるがなかなか小屋も見えて来る気配もない。まだかまだかと思いつつ下り、辺りが開けてくると小屋も近いことが感じられる。小屋への分岐から木道を進み、聖平小屋に着いた。



今までの行程からはこれ程多くの人が入山しているとは思えない程の登山者で賑やかだった。ウェルカムデザートで一息ついて、恒例の憩いと昼寝? となり二日目も暮れていった。

明日の行程は長〜いので早めに横になる(まあいつもと同じだけどね)

夜半から少し風がでて小屋をノックする音が気になった。

8 / 7 まだ起きる登山者も少ない3

時前起床、そっと小屋の外へ。行動時間を考えて夜間歩行のスタートになった。

各自不用品は小屋隅にデポして、3時半、聖岳に向けて歩き出す。昨日の小屋へ分岐からまず薊畑へ登る。北寄りの風が少し強いが暑くなくて助かるかも。

ヘッドランプに照らされる道型を追って登って行く。辺りの様子は暗いので分からないが、東の山越しに雲の塊も見えている。ライトに照らされる揺れるマルバダケブキを見つつ薊畑に出ると、傾斜もきつく本格的な登りとなってくる。

が、周りも見えず、暑さもさほど感じないのでつらい感じは少ない。(今後夏山はこの手がイイかも) やがて徐々に明るさも戻り、Hランプも不要になる頃に小聖岳も近づいてくる。

と、突然視界が広がり巨人ならぬ巨山が現れる、聖本峰である。デカイ！美しい！

小聖へ回り込むように登るが、何と今度は茜色を纏った富士のシルエットが目

に飛び込んで来た。これが南アのオ・モ・テ・ナ・シ?! か

一登りで小聖岳、当然しばし眼前の巨大な本峰と明け行く富士を堪能した。

さて我に返る

と何とも気が重い、立ちはだかる壁のような急登を行かねばならない。が、頑張っ

てワンピッチで登りたい。小聖からしばらくは左が大きくガレた

雑の縁を登降して(道はしっかりしているの

で危険は少ない)本峰の急登になっていく。岩混じりやザレで足場のあまり安定しないジグザク道急登をただただ我慢して

体を上に持ち上げる動作を繰り返す。



が、周りも見えず、暑さもさほど感じないのでつらい感じは少ない。(今後夏山はこの手がイイかも) やがて徐々に明



途中からは射し込む朝日まともに向かい合うこともあり、眩しー!

とまあ、辛くとも楽しい登りを

休まずに登り切って、南アルプス最南端の3,000m峰、前聖岳に到着する。

山頂は広くしかも360度、山・やま・ヤマの大展望、こんな贅沢な山頂はそうないだろう。眼前にそびえる赤石岳を始めとする南ア、富士は勿論、中央ア、恵那山、御岳山、八ヶ岳など、素晴らしい眺望が堪能できる。おととしの



赤石岳の山頂を思い出す、あの時も今日みたいに快晴だった。南アよアリガトウ!



山頂の憩いは朝食も兼ねて幸せな時間を過ごすことが出来た。

8時前に聖の山頂を辞して今後はナガ〜イ下山が始まる。

本峰の急なザレ気味をジグザクに下り、ガレの縁を通過して、小聖岳に戻り、

しばし(大)聖を眺めて別れを惜しむ。また来られる機会はあるか? ...ないか?

小聖岳から先も





チラチラとヒジリの親分を見ながら下って行く。やがて2600位からは灌木帯になってくる。この後は聖平小屋までの道

は、登りは暗くて分からなかったが、道の両側から微笑む花々が楽しませてくれる道だった。

小屋ではザック整理と再パッキングを済ませてから、榎島への聖沢に沿った下りルート of 道に入っていく。



しばらくは流れに沿った散歩道の様で快適な森の道だが、数回小沢を渡るとトラバースになるが、これがくせ者で下り

ルートなのに登り返しも多く標高も殆ど下らない歩きが続く。慰霊碑、滝見岩頭台を過ぎて一服、更にスリッ

トラバース行き、大きな尾根を回り込んでガレ場、吊橋を過ぎるとトラバースから解放される。小屋から2時間余り下って、腹も空き頃なのでランチにした。

湯も沸かしてそれぞれ持参の食料とお茶をしたが、とても気持ちの良い時間だった。

その先で道は尾根に乗るようになって、やっと下りらしく一気に高度を下げるが、



そこは南ア、足場を注意しなければならない小ガレなども多く決してお気楽な下りとはいかない。また、行き交う登山者



もトップシーズンの日曜とは思えない位少なく、山の深さを再認識させられる。急下降を下り切って聖沢吊橋。

さて吊橋を渡ってもうひと頑張りだが、再び狭い栈道の続くトラバースとなる。しかも緩やかではあるが明らかに登りが多い。橋から40位程登ってから尾根を回り込んでからは下りになって、そのまま一気に東俣林道の聖岳登山口まで下ることになる。

30分程待つて東海フォレストの送迎で榎島ロッジへ。山行も明日の帰路を残すのみとなった。



予定通り、泡、風呂、食、2次会となって開放感?に浸ってzzz...

8/8 歩かないけど朝食は5時半に済ませて、白簾史郎写真館を見学、「雪はなかったけど昨日の見たね」などと(言ったかは定かではないが)

8時前、送迎に乗車~畑薙第一ダム臨時Pへ。2台の車で帰路についた。

全員いつもの山行より充分に早い時間に帰宅できたのではないだろうか?

皆さん、お疲れ様でした。

南アルプスって、デカク、フカク、シズカ、山にイルーツという雰囲気たっぷりです。イイデスネ!? そう思いませんか?

皆さん、機会があったらまたぜひ足を踏み入れてください。

(記&写真・涌井 良明)

(写真提供・遠井 兼策)

